

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成25年度]

1. 取組項目	海外インターンシップの発展・充実				
2. 取組内容	(1) 海外インターンシップの実施(中国、台湾、韓国) (2) 現地企業の開拓・調査(中国、台湾、韓国、シンガポール) (3) 「地域の国際ビジネス」をテーマにした講義「教養特講Ⅳ」の開講				
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入  (1) 昨年度実施の中国インターンシップに加え、今年度は台湾、韓国での3ヶ国で海外インターンシップを実施。中国は受入企業7社9名、台湾は3社6名、韓国は2社4名、合計19名の学生が参加した。なお、中国には下関市立大学から1名、北九州市立大学から3名の参加があった。 【インターンシップ期間 韓国:8/3~8/17、中国:8/18~8/31、台湾:9/1~9/14】 学部・新生オリエンテーションや講義内で複数回学生募集を行い、事前学習は語学研修、企業先リサーチ、体験時留意事項、研修概要、自己紹介プレゼンテーションの作成等の指導。事後学習は、体験報告書作成・発表用スライド作成等指導、事後面談等を実施した。 連絡調整に関しては、受入企業へ情報提供、企業ニーズの吸上げ等コーディネート実施。  (2) 受入企業開拓・実施前打合せ・宿泊先調査等の為下記の通り海外出張を実施。 中国(3回:5/9~5/12、8/18~8/31、12/25~12/28) 台湾(4回:6/18~6/21、9/1~9/13、12/10~12/13、1/12~1/15) 韓国(2回:6/24~6/27、8/3~8/17)、シンガポール(1回:11/20~11/23) 平成26年度実施開始のシンガポールに関してはビザ申請認可がなされた。学生にとってよりよい実習環境の整備がされたことは評価できる点である。津曲学長も台湾へ企業開拓・調査・御礼等トップセールスをして頂いた。  (3) 「教養特講Ⅳ」の開講 ゲスト講師として県内の実務家を招聘し、「地域の国際ビジネス」をテーマに、進行中の国際ビジネスについて体験を通じた講義・ディスカッションを行った。				
評 定	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	中国に加え、台湾と韓国で海外インターンシップを実施でき、参加学生も6名から19名に増えた。さらに、他大学から4名の参加があり、大学間連携が深まった。また、中国のインターンシップ先として日系企業3社を新たに開拓し、本学の中国人留学生も研修に参加した。このことは留学生の就業力育成につながった。シンガポールと台湾・台北で企業開拓を行い、次年度実施の目途がたつた。台北では、鹿児島相互信用金庫、鹿児島県人会等の協力を得て、複数の企業で受け入れの表明があり十数名分のインターンシップ先を確保できた。台北と鹿児島には直行便があり交通の便が良い、また親日家が多く鹿児島とも関係が深いなどの点で台北でのインターンシップは今後拡げていきたい。シンガポールでは難しいと思われていたビザ取得への道が、連携大学との協力で、開けた。このことは、東南アジアでの英語でのインターンシップが可能になったという意味で大きな一歩である。教養特講Ⅳで「地域の国際ビジネス」をテーマに外部講師を呼んで学生に話をしてもらった。学生のコミュニケーション能力の育成のため、質疑応答の時間を多く取り、学生が中心になって講師とのディスカッションを行った。本取り組みによって、国際的な産業界との連携、他大学との連携が拡がり、海外インターンシップの環境整備が進んだと言える。				

【外部評価委員会評価】

評 定	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島県人会や商工会議所などと太いパイプを構築し、それを通じてインターンシップの受け入れ企業を増やしているため、一つ一つの企業の研修機関としての定着度が高くなると期待できる。ホテル、製造、教育、販売など多様な業界で企業を選定している点、他大学と連携している点も、学生のキャリア・ビジョンを広げ、職業現場における人との関係性を広げる意味でも、高く評価できる。</li> <li>・また、事前・事後学習を念入りに実施し、成果報告会を開催している点も、学生の動機を高め、学んだことを将来的に活かしていくうえで意義が大きい。</li> <li>・企業からの学生評価結果と学生の自己評価結果を指標ごとに数値化したことは大変素晴らしい取組であると言える。問題は特に学生自己評価の数値が低い指標の能力(「考えを伝える」「アイデア」)向上させるために、いかなる教育改善を行うべきか検討することである。</li> <li>・次のインターンシップ先としてシンガポールにターゲットを絞り、既に構想を始めている点も、本プロジェクトの継続と展開を確かなものにするうえで、高く評価できる点である。</li> </ul> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施(開拓)に伴い、試行錯誤を強いられたと思うが、発展・充実に向かって、ステップを踏んでいることが見え、評価出来る。</li> <li>・参加した学生の方も、慣れない外国での生活の中から、主体性、積極性を出して就業体験に取組み、実効性を高めていることが報告の中でも見えてきている。</li> <li>・また試行錯誤を行いながら、内容充実へ伸展するステップを踏んで行くことであろうと期待が持てる。</li> <li>・外国側との人的関係、情報網、事前研修の充実等、今後期待が持たれるが、現時点では高く評価出来る。</li> </ul> <p>&lt;岩元 修士委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数・他大学の参加が増えている。</li> <li>・参加者の目的意識も高く、短期間ではあるがその効果は大。</li> <li>・受入国・受入企業の開拓に成果あり。</li> </ul>				

【アドバイザー評価】

評 定	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入企業開拓が着実に進行されている。</li> <li>・コミュニケーションツール、とり方の工夫がなされ、学生に安心感を与えている。</li> <li>・帰国後のフォローアップに、もう少し、時間と工夫をほどこされると、さらに良い効果につながりそうである。</li> </ul>				

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成25年度]

1. 取組項目	国内インターンシップの発展・充実				
2. 取組内容	(1)国内インターンシップの実施(3日間社長のカバン持ち体験、県インターンシップ、本学独自インターンシップ、長期実践型インターンシップ) (2)県内企業の開拓				
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入 (1)国内インターンシップ(3日間社長のカバン持ち体験、県インターンシップ、本学独自インターンシップ、長期実践型インターンシップ)を8月～10月に実施した。 ・3日間の社長のカバン持ち体験は受入企業31社へ35名の学生が参加。連携先の鹿児島相互信用金庫にて2日間の事前研修後、金庫取引先企業での企業研修を行った。事後研修の一環として成果報告会を開催(10/22) ・「鹿児島県インターンシップ」は、受入企業15社へ28名の学生が参加。学内にてビジネスマナー講座(事前研修)受講後、企業研修を行った。県内の機関で構成する「インターンシップ推進連絡会」との連携事業で、参加した学生は企業理解の深化が図れた。 ・「本学独自開拓インターンシップ」は、受入企業14社へ30名の学生が参加。学内にて事前研修後、企業研修を行った。本学と県、市、商工会議所、経済団体等の産業界との連携による紹介や本学独自開拓先での研修にて、学生は企業で働く厳しさ、勤労観・職業観の育成や多様な人とのコミュニケーション能力などを高められた。 ・「長期実践型インターンシップ」は受入企業2社へ3名の学生が参加。NPO法人において起業家の事業取組姿勢等を長期期間にわたり学ばせてもらうことにより、主体性・積極性を涵養できた。 (2)産学官連携をとりつつ、行政機関、経済団体等の情報発信等の取り込みによる開拓や、教職員の人的ネットワークによる受入企業開拓の増加があった。今後も推進・拡大を図るが、単に量的拡大を目指すということよりも、意識醸成が図られた学生に協力することにより積極的意義を見出す企業の開拓、いわゆる質的拡大も視野に入れながら、実の伴う取組体制の整備も行っていく予定である。				
評 定	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	上記にあるように、「3日間社長のカバン持ち体験」35名、「鹿児島県インターンシップ」28名、「本学独自開拓インターンシップ」30名、「長期実践型インターンシップ」3名、計96名が国内インターンシップに参加した。社長のかばん持ちは3年目を迎え、取り組みとして定着してきた。本学独自開拓も地元企業とのネットワークが確かなものとして拡がりつつあることを実感している。逆に、県のインターンシップは、昨年県が手を引きWeb化されてから激減して元に戻っていない。このことは、人と人の対面による対応がいかに重要であるかを物語っている。今後、インターンシップを継続していくためには、学生と教職員、教職員と企業人、企業人と学生という人的つながりを強めることが何よりも大切である。今年度、人的なネットワークをさらに強化拡大することができたという意味で評価できる。				

【外部評価委員会評価】

評 定	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本プロジェクトでは、説明会や事前学習、事後学習、成果発表会、ポスターセッションなどにより、企業で研修することの意味や心構えを学ぶことから、企業で体験したことを将来に活かすプロセスまで網羅しており、インターンシップの教育的効果を大きく高めていると言える。</li> <li>・受け入れ企業の数や参加学生の数も増えており、インターンシップが本プロジェクトの中核として定着してきている。</li> <li>・学生の報告書に、コミュニケーション面での気づきや向上が数多く語られており、「自律的職業人」の育成という本プロジェクトの教育目標の最も重要な部分を実現していることが分かる。</li> <li>・企業からの学生評価結果と学生の自己評価結果を指標ごとに数値化したことは大変素晴らしい取組であると言える。問題は特に学生自己評価の数値が低い指標の能力(「考えを伝える」「アイデア」)向上させるために、いかなる教育改善を行うべきか検討することである。これは上述したコミュニケーション面での学生の気づきを反映した結果であるはずで、この点を改善することが学生からのニーズに応えることにもなる。</li> </ul> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年次実施の中で、学校側の意欲、スタンスが、学生と企業の評価の中に表れているし、又、見えるようになってきたのは評価出来る。</li> <li>・学生側もインターンシップの流れの中で、積極性、主体性、コミュニケーション力の実効性が評価出来るようになってきた。</li> <li>・企業側にも、余裕が出てきて、その間しっかりと学生と向き合い、目的と役割を果たそうとする真摯の態度が見られるようになってきた。</li> <li>・インターンシップ目的でなく、手段と思うので、学生自身がどう将来(社会人)に繋げていくのか結び付けるために、今後当インターンシップの発展、充実に伸化しなければならない。その点を踏まえ、現時点では十分評価出来る。</li> </ul> <p>&lt;岩元 修士委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高いレベルでの維持拡大が行われている。</li> <li>・定着も進んでいる。</li> <li>・地域に根ざした企業のみならず、NPO法人・行政含め各セクターへのアプローチがなされている。</li> </ul>				

【アドバイザー評価】

評 定	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社長のカバン持ちは、極めて貴重な体験である。</li> <li>・参加人数も着実に増加してきている。</li> <li>・協力団体が増えて来た。(県は手を引いたが…)</li> <li>・マッチングの工夫を期待する。</li> <li>・フォローアップを、発表だけでなく、そこから未来につなげる行動計画にも言及して欲しい。</li> </ul>				

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成25年度]

1. 取組項目	産業界と連携したフィールドワークの展開				
2. 取組内容	従前の取組内容を発展・充実させた新たな取組として、地域の産業界とのコラボレーションによる地域貢献プロジェクトを実施する。また、かごしま市商工会と連携して、商店街の活性化などの取り組みによる人材育成を行う。このような取組により地域のニーズに対応するとともに、学生が実社会とのつながりの中で、問題発見能力、自ら考える力、主体性、協調性など、社会で必要とされる能力を身に付けられるようにする。				
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入 地域経済団体でもあるかごしま市商工会との連携事業の展開として「平成25年度郡山春まつり」、「谷山ふるさと祭り:踊り連」へ参加。また、慈眼寺通り会の「慈眼寺ガラムップ作成及び食べ歩き」を第1弾:7月実施。第2弾においても3月8日・9日にイベントを開催した。 産業界との連携事業は、その活動を新聞掲載されるなど地域の活性化や地域産業界との協議体の形成に繋がり、大学として地域貢献が出来た。地域のニーズに対応すべく、来年度も連携を実施していきたいと考えている。 昨年度に引き続き、就業力育成プロジェクト室に併設されているコミュニティールームが、学生のフィールドワーク活動の場として定着してきたことも確認できている。次年度以降も活動に応じた適切な参加人数には配慮しながらも参加人数を増やしていくことが望まれる。				
評 定	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
理 由	充実したフィールドワーク活動を展開することができたと思われる。いずれも地域貢献という目的にも沿った活動であり、外部の企業・団体と連携することにより学生が実社会とのつながりも感じる事となった。学生の活動の幅を広げるだけでなく、自ら考える機会、それを人に伝えるなどの機会を十分に提供することができたと思う。地域貢献の場として「かごしま市商工会」との連携が今年も継続し定着してきた。これからも地域の大学として地域との関係を深めていきたい。				

【外部評価委員会評価】

評 定	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt; ・学生主体のイベントを教育活動として活かすためには、そのイベントへ至るプロセスにおいて授業や教員がどのように関わるか、あるいは、そのイベントの成果をいかにして学生の恒常的な成長プロセスに取り込んでいくかということが求められる。イベントそのものは大変ユニークで好ましいものだが、そこから学生が何をどう学ぶべきかという観点と、その観点を教育的にいかにして実質化するかという点が欠けていると思われる。今後は通常の授業との連携やイベント活動の単位化を検討すべきではないか。</p> <p>&lt;岩元 修士委員&gt; ・地域に根ざした大学として商工会との連携が定着している。 ・更に地域の課題に対し多様な取り組みができることを望みます。</p> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt; ・地域人(学生)として、商店街、企業、住民の中に溶け込み、イベントを実践・活動する中で、実社会との繋がり、問題発見力、自ら考える力、主体性、協調性等の実践の場として、実効性は評価できる。特に、活動の中で、相互扶助の精神が地域社会に存在し、成り立っていることを学び得たのではないか。</p>				

【アドバイザー評価】

評 定	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<p>・オーソドックスではあるが、学びの多いであろう取組みには一定の評価ができる。 ・具体的な成果を、もっと出して欲しい。 ・やや、マンネリ化を感じる。 ・参加人数、取組規模をさらに伸ばして欲しい。</p>				

鹿児島国際大学 事業評価シート①(取組項目別)

【自己評価】

[平成25年度]

1. 取組項目	Webキャリア・ポートフォリオによる記録と振り返り				
2. 取組内容	学生たちが取り組んだ内容と自己評価をWebキャリア・ポートフォリオに記録させる。これを利用して各自がPDCAサイクルを回すことによって、社会的・職業的に自立した、産業界のニーズに対応した人材を目指す。また、Webキャリア・ポートフォリオを利用して教育効果を評価・確認する。				
3. 成果と課題	2. 取組内容を踏まえ、該当年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入  新入生ゼミナール、インターンシップ参加学生を中心にポートフォリオの活用について案内・説明を実施。インターンシップ参加学生に対しては、学生記録情報の利用(書類のダウンロードから日々の活動日誌、報告書への記録等)を促したが、自己評価入力への徹底という点について十分ではなかった。学生の入力率の増加と教育効果の測定のためには、教員との連携体制の強化が不可欠であり、今年度はこの点で課題が残る。また、自主活動団体やサークル活動の告知や報告にて利用する学生が増えており、この点については活用の有効性が確認できた。				
評 定	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	昨年度に引き続き、Webキャリア・ポートフォリオのログイン率は前年度比130%(1月末現在)であり、利用者数が増加している。Webキャリア・ポートフォリオは教員による学生指導の面(成績や出席状況が一覧で表示される)でも使いやすい。インターンシップやフィールドワーク等様々な場面で利用されるようになってきているが、入力の徹底という点において十分とはいえない。新入生に入力を徹底し、習慣づけることが重要である。今後も学生・教職員への周知活動に努めていく必要があると考えられる。				

【外部評価委員会評価】

評 定	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt;          ・このようなポートフォリオは多くの大学が取り組んでいるが、なかなか効果的に運用した例がみられない。そんな中、ログイン率の増加やインターンシップでの日誌等のための活用、インターンシップ事後アンケートでの項目利用など、実質的な有効活用が推進されている。          ・特に、細かな指標ごとの学生の資質・技能の推移を数値化し、測定する評価手法は今後の大学教育のスタンダードとなるものなので、その先駆的な例として大きな意味を持つ。</p> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt;          ・「大学の目指す姿」は、「自分の言葉で表現できる」であり、その学生を育成するためにしっかりと、ポートフォリオが組織されている。その礎にどう学生が能動的に動かがキーワードであり、学生側もあらゆる機会の場を通じて案内、説明を行って実効性を高め、数字上にも出てきている。          また、他動的な面で有効性も確認出来たことは、それらを選択、集中することで、更なる深化が期待される。従って、現在点では評価出来るにとどめたい。</p> <p>&lt;岩元 修士委員&gt;          ・情報技術をキャリア形成に上手に取り入れている。          ・またその活用度も高い。          ・更なる活用も期待できる。</p>				

【アドバイザー評価】

評 定	<input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる	<input type="checkbox"/> 4. 評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> 3. どちらでもない	<input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない	<input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない
	取組内容について、成果をあげているかという観点から評価				
理 由	<p>・システムは工夫されている。          ・教務システムとの連動は評価できる。          ・インターンシップ生は100%の利用率も評価できる。          ・一方で、一般学生の利用率には、大きな課題があると言えそう。          ・教員の支援は不可見だが、負担増を考えると、なかなか現実的ではない点も多いように思う。          ・入力が最終ゴールではなく、入力した内容をどう活用し、今後のキャリア発達につなげていくか、是非、一歩先の事例となるよう、改善を積み重ねていって欲しい。</p>				

鹿児島国際大学 事業評価シート②(全体評価)

【自己評価】

[平成25年度]

1. 取組の経緯とこれまでの実績	<p>鹿児島国際大学は、平成22年度以降「大学生の就業力育成支援事業」として「自分の言葉で表現できる学生の育成」を目的に就業力育成に取り組んできた。この目的を達成するために、全学的な教育改革(「オムニバス講義」「フィールドワーク」「演習」の3科目群の再編・改革)を行い、学部・学科を中心に大学として「自分の言葉で表現できる」学生の育成に焦点をあてた段階的かつ連鎖的なプログラムを構築する事に取組み、カリキュラムに反映させた。</p> <p>これらの取組を踏まえ、平成24年度より「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」として取り組みを開始。九州・沖縄・山口地域22の大学と連携し「地域社会に活力(地域力)をもたらす、主体的に考える力を持った自律的職業人」の育成・輩出を目標に3グループのテーマに分かれて取り組んできた。うち、本学はインターンシップの高度化を目指し、本学を含めた9校でインターンシップグループを組織。これまでのグループ校での取組から得られた知見と課題を共有し、産業界の意見を踏まえながら効果的かつ持続可能なインターンシップ実施のためのモデルプログラム(高度化モデル)の開発・作成を行うこととする。インターンシップグループの年次計画としては①平成24年度は各大学の事例の共有化と高度なインターンシッププログラム開発、②平成25年度は開発プログラムの9大学での実施、③平成26年度は実施ノウハウの集約化、インターンシップ継続のための仕組み作りを行う。なお、達成目標として、インターンシップ参加学生数の増加率を25年度/23年度=120%と設定している。</p> <p>なお、鹿児島国際大学は「大学生の就業力育成支援事業」での成果を基に、本事業の趣旨・目的を踏まえ新たな取組として海外/国内インターンシップをさらに発展・充実させることとしている。</p>
2. 取組内容	<p>事業の取組項目を箇条書で記入</p> <p>(1) 海外インターンシップの発展・充実 ①海外インターンシップの実施(インターンシップグループ校との連携) ②現地企業の開拓・調査(産官学連携)</p> <p>(2) 国内インターンシップの発展・充実 ①国内インターンシップの実施 ②県内企業の開拓</p> <p>(3) 産業界と連携したフィールドワークの展開 ①かごしま市商工会等との連携によるプロジェクトの実施</p> <p>(4) Webキャリア・ポータルサイトの活用 ①利用サポート(学生・教員・職員)</p> <p>その他 取組全体に係る内容として ①委員会の開催(プロジェクト委員会、インターンシップ委員会) ②九州・沖縄会議、インターンシップグループ会議への出席</p>
3. 実施体制・運営組織	<p>別紙「実施体制図」参照</p>
4. 成果と課題	<p>上記1～3を踏まえ、該年度の成果と次年度への展望(課題・改善策等)を記入</p> <p>取組内容の成果と課題については項目別評価シートのとおりである。その他、取組全体に係る内容の成果として ①委員会の開催 事務局等実施体制の構築 「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト委員会(通称:プロジェクト委員会)」:本事業の承認機関とし、学内事務部局の長を中心としたメンバー構成とした。年2回の開催予定。また、インターンシップ委員会は国内・海外インターンシップの科目担当者を中心としたメンバー構成とし、シラバスの作成や事前学習の内容、研修監督引率等実務的な議題を検討した。 ②九州・沖縄会議、インターンシップグループ会議への参加 本学の所属しているインターンシップグループは、検証にあたる本年度は「試行プログラムの検証」を掲げており、これまでの取組みから得られた知見と課題を共有し、産業界の意見を踏まえ、効果的かつ持続可能なインターンシップ実施のためのプログラムを開発中である。取組テーマの成果として、中でも本学の「海外インターンシッププログラム」が、効果的かつ持続可能なインターンシップモデルとして位置付けられ、仕上げの年度にあたる平成26年度のモデルプログラムとして作成される予定である。</p>
評 定	<p><input checked="" type="checkbox"/> 5. 十分評価できる    <input type="checkbox"/> 4. 評価できる    <input type="checkbox"/> 3. どちらでもない    <input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない    <input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない</p> <p>取組内容について、成果をあげているかという観点から評価</p>
理 由	<p>3つの取組み「海外インターンシップ」「国内インターンシップ」「フィールドワーク」については個別に評価した通り、かなりの成果を上げることができた。特に、海外インターンシップについては、学生の満足度が高く、他大学との連携もでき、インターンシップグループ会議の中で先進的な取組みとしてモデルにも取り上げられている。組織的には、インターンシップ委員会で審議し、プロジェクト室を事務局として委員、その他の教職員の協力のもと運営を行ってきた。少ない人数でこれだけの事業を完遂できたことは十分評価できる。</p>

【外部評価委員会評価】

評 定	<p><input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる    <input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる    <input type="checkbox"/> 3. どちらでもない    <input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない    <input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない</p> <p>取組内容について、成果をあげているかという観点から評価</p>
理 由	<p>&lt;竹内 勝徳委員長&gt; ・「自律的な職業人」という明確な目標をかかげ、その実現に向けて鹿児島国際大学としての強みを生かし、それをさらに伸長する方向で確実に教育を改善できている。特に、海外インターンシップや国内インターンシップの取組では、加速度的な勢いで事業展開しており、学生への教育効果も報告書や事後アンケートで明確に示されている。Webキャリア・ポータルサイトについても、相対的には有効に活用しており、教育改善に直接結びつける段階にはないにせよ、学生の能力向上の面で大きな可能性を感じさせる。その反面、フィールドワークの教育活動としての位置づけが中途半端である点是否めないで、インターンシップとの連動性や通常の講義・演習との連携なども視野に入れて、より強力に推し進めていく必要がある。</p> <p>&lt;稲葉 直寿委員&gt; ・全学的な教育改革は、それぞれの「目指す姿」に向かって、実施・活動の中で、ダイナミックに動きだし実効性を高めてきているのが「見える化」となっているのは評価出来る。 ・今後は、組織化の下で、PDCAサイクルで機能的、効率的に内容の充実、特に学生が主体性・自立性を発揮するためには、更にどうあるべきかを問いながら特性発揮の学校へとっていくのがポイントである。従って現時点では十分評価出来る。</p> <p>&lt;岩元 修士委員&gt; ・各取組の目標達成に向け少人数ではあるが学内外の協力を集め多様な取り組みを実行している。 ・またその取り組みが定着し成果に結びついている。</p>

【アドバイザー評価】

評 定	<p><input type="checkbox"/> 5. 十分評価できる    <input checked="" type="checkbox"/> 4. 評価できる    <input type="checkbox"/> 3. どちらでもない    <input type="checkbox"/> 2.あまり評価できない    <input type="checkbox"/> 1. まったく評価できない</p> <p>取組内容について、成果をあげているかという観点から評価</p>
理 由	<p>・着実に成果があがってきたと思われる。 ・今後は、成果をより高く、より充実できる仕組みを作っていただきたい。 ・参加学生のさらなる増加に期待したい。 ・学生の体験、職員、教員の感じたこと、学んだことの共有～モデリング学習を推進していただきたい。</p>